Osaka University Knowledge Archive

Title	言語文化学 Vol.24　編集後記
Author(s)	小杉, 世
Citation	大阪大学言語文化学. 2015, 24, p. 142-142
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77751
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

編集後記

『言語文化学』第24号をお届けいたします。今号には論文19編の応募があり、そのうち論文13編が提出されました。厳正な審査の結果、最終的に論文9編を掲載することになりました。ご多忙中にもかかわらず査読をご快諾下さった先生方には、この場をお借りして衷心より感謝申しあげます。

また、学会活動のもうひとつの柱として、例年通り2度の合同研究発表会を開催しました。箕面キャンパスで開催された第45回大会（春季大会、6月26日）では、今年度も言語社会学会の皆様に準備・運営から懇親会に至るまで、大変お世話になりました。言語文化学会から8名、言語社会学会から8名、合計16名が4室に分かれて研究成果を発表しました。第46回大会（秋季大会）は豊中キャンパスで10月23日に開催し、言語文化学会から7名、言語社会学会から8名、合計15名が4室に分かれて研究成果を発表しました。懇親会にも多数の皆様にご参加いただき盛会となりました。

学会運営については、本年度は、植田晃次先生（副委員長）、大村敬一先生（学会誌通年）、小杉世（委員長）、田村幸誠先生（秋の大会運営）、中村静先生（事務局）、西田理恵子先生（秋の大会運営）、林良彦先生（春の大会運営）、宮崎麻子先生（書記）、宮本陽一先生（学会誌後期）の9名の教員委員（五十音順）、および、于淼さん、金子理紗さん、肖鑫博さん、杉山真央さん、陳曦さんの5名の院生委員（五十音順）から成る、総勢14名の委員が担当しました。事務局3年目の助教の中村先生には今年度も大変お世話になりました。また他の委員の皆様の働きにも大いに支えられました。学会運営に伴う実務上の煩雑な業務を黙々とこなしてくださる助教の方のご尽力は学会の円滑な運営に不可欠なものであり、事務局と委員会の仕事のバランスや委員会の構成など改善と工夫の必要な課題も抱えているのが現状です。今年度は、昨年度の委員会で決定した投稿・査読の電子化を初めて実施したことにより、投稿者や査読者の皆様にもいろいろとご協力をいただきましたことお礼を申し上げます。今後、将来的な可能性として、院生の方々にも学会誌の編集過程に補佐として加わっていただくという案や言語学系・理系の学会で普及しつつある「電子投稿査読システム」を利用することで事務的な仕事を軽減するなどの案が今年度の委員会では出ました。学会員の皆様には、今後も大会や本誌に積極的にご参加下さるとともに、学会主担当者不在体制となって久しく、助教も含み各委員が本務・本業の傍ら運営にあたらざるを得ない現状の中、ご発表・ご投稿の際の要項遵守などに関しまして、引き続きご協力をお願い申し上げます。

将来、学会誌を作り上げる過程が教員と院生の共同作業による教育実践の一貫となることを願い、さらに、言語社会学会と合同で開催することになってはや数年経つ大会運営の試みが、両学会のより一層の交流の機会として、充実していくことを期待します。

2015年2月

大阪大学言語文化学会委員長　小杉　世